

## スーダン国際平和協力業務に従事する要員の「現地からの声」

国連スーダン・ミッション（UNMIS）に派遣中の山本正巳 3等陸佐及び勝又一博 1等陸尉の2名は、首都ハルツーム市内にあるUNMIS司令部において、2009年4月から国際平和協力隊員としてPKO活動に従事しています。お二人から現在の業務とスーダンでの生活についてお話を伺いました。（聞き手：UNMIS 齋藤昌子（元内閣府PKO事務局国際平和協力研究員））

### 山本正巳（やまもと・まさみ）隊長

#### Q．UNMISで担当している業務について教えてください。

2009年4月から首都ハルツームのUNMIS軍事部門司令部J4で兵站幕僚として活動しています。主な業務は、担当するセクターの部隊や軍事監視要員の兵站状況を確認し、現場が抱える問題を解決できるように関係各部署と連絡調整することです。

各セクターでは居住環境や車両故障といった問題を抱えており、補給品の在庫や輸送機も限られているため、軍事監視要員の日常生活や業務に影響を与えています。司令部には現場が抱える問題について報告があがってきますが、実際に目で見ないと書類だけでは分からないこともあります。そのため月一回程度出張して現場の声に直接耳を傾けるようにしています。

これまでにジュバ(Juba)、アルオベイド(El Obeid)、マラカル(Malakal)、ワーウ(Wau)に現場確認及び業務調整で出張しました。7月にジュバへ出張した際、軍事監視要員の車両故障を改善するため現場担当者との調整ミーティングを行いました。整備担当者に優先順位をあげて早く問題解決するように働きかけたものの、1ヶ月が過ぎても部品が現場に届いていないという状態でした。UNMISでの業務は日本のようにはスムーズに進まず、気長に取り組む姿勢と根気強い調整が必要です。時間がかかり遅々として進まない中で、いかに周りの関係者を巻き込みながら業務を進めていくかが、仕事を成功させる秘訣の一つではないかと感じています。また、赴任後しばらくの間は職場で使う英語に早く慣れるために、毎晩リスニング教材を使って英語の勉強に励んでいました。司令部で業務を調整するためには、上司・同僚のオーストラリア人やエジプト人のほか、セクターの現場にいるバングラデシュ・インド人など、各国様々なお国なまりの英語を理解することが求められます。



（出張先のワーウにて）



（南部ワーウの住居）

#### Q．赴任前と赴任後でスーダンの印象は変わりましたか？

病気、マラリア、難民、治安の悪さ…。来る前は報道で見るイメージが強かったのですが、実際に赴任してみると、ハルツームは比較的安全で大抵の物は購入できるため、思っていたよりも住みやすい町だと思います。一方、出張の機会ですべて実際に南部地域を訪れてみると、多くの民家が藁葺（わらぶき）の家で生活し、地域によっては食料不足に苦しんでいるところもあり、南北の格差を感じました。

また、スーダンでは厳しい環境にも関わらず、想像していた以上に多くの邦人、特に女性が多く活躍していることに驚きました。在スーダン日本大使館職員、UNMIS、ダルフール国連・アフリカ連合同ミッション（UNAMID）、国連開発計画（UNDP）、世界食糧計画（WFP）、国連児童基金（UNICEF）等の国連機関の職員他、国際協力機構（JICA）、NGO等の方々がスーダンの平和と発展のために、厳しい環境の中で日々汗を流しています。

#### Q．スーダンでの生活はいかがですか？

スーダンでは娯楽が少なく、ストレス発散のため、週末は邦人との食事会に参加したり、読書をしたり、DVD鑑賞で気分転換しています。また、最近は料理にはまっています。今まで本格的に料理に取り組んだことはありませんでしたが、ここでは日本のようなコンビニ生活という訳にはいきません。現地の食材を使いながら日々新しいメニューに挑戦しています。私のお勧めのメニューは“ラムチョップ”です。スーダンでは豚肉が手に入らず鶏肉は値段が高いため、日本ではあまり食べる機会がない羊肉を使った料理に挑戦しました。ここで少しでも料理の腕をあげて、帰国後、赴任間に世話をかけた家族に恩返しをしたいと思えます。



（邦人との食事会）

#### Q．任期終了まで約1ヶ月半ですが、何か取り組みたいことはありますか？

UNMISでは、日々職員が交代するため、業務の引き継ぎがとても重要です。このため、現在取り組んでいる業務をいかにスムーズに次期要員に申し送るかが大切だと考えています。1次隊が基盤を築き、2次隊の私たちが軌道に乗せて、3次隊でしっかり稼働できるように、うまくバトンタッチしたいと思えます。

また、現在UNMISで勤務している自衛官は2名であるため、約10,000人の職員が勤務する中では極めて少数派です。少しでも多くの職員（各国軍人及び文民）に日本を良く知ってもらえるように、いろいろな機会を通じて交流を深めたいと思えます。

UNMIS赴任直後は戸惑いもありましたが、人とのつながりを大切にする陸上自衛隊での姿勢はここUNMISでも重要だと感じています。それは、PKOは特別な業務というわけではなく、日本でやってきたことをそのまま生かすことができる場であるからです。

（2009年8月28日、インタビュー実施）



（山本隊長と聞き手・齋藤）

## **勝又一博（かつまた・かずひろ）隊員**

### **Q．UNMISで担当している業務について教えてください。**

首都ハルツームにあるUNMIS統合任務分析センター（JMAC）情報幕僚として、UNMIS司令部のデータベースの保守管理に携わっています。JMACは、国連事務総長特別代表（SRSG）をはじめとする上級管理者の意思決定をサポートするために、中長期的な視点での脅威の査定や、統合的な分析を提供する機関です。その中でも、データベースを最新の状態に維持するために、データベースの維持・管理業務等を実施しています。



（JMACオフィスにて同僚と）

### **Q．赴任中で印象に残っている出来事は何ですか？**

これまでにスーダン南部のジュバ(Juba)とワーウ(Wau)にJMAC分析官と共に出張しました。普段は分析官が集めてきた情報を業務上取り扱う立場ですが、自分が扱う情報がどのように収集されているのか実際に自分の目で確認できるよい機会でした。

現地ではUNMIS軍事監視要員によるパトロールの同行の下で、分析官が各関係者から治安状況等の情報を収集する状況を確認することができ、その後の業務の改善のためにもたいへん有益な経験となりました。



（ワーウにて。パトロール同行の下で情報収集先に向かう）

出張先へは国連機で向かいましたが、到着が大幅に遅れるという事態もありました。それもまたスーダンであるからこそその貴重な経験であったと思います。また、南部の町はインフラもあまり整っておらずマラリア感染の危険もあるなど、北部の首都ハルツームとの格差を感じました。

### **Q．業務に際して気をつけていることはありますか？**

情報を取り扱っているため、常に正確性を重視して業務を実施しています。データベースに誤った情報を管理していると、その後のJMCA分析官の情報分析に支障を来すからです。多くの情報を取り扱う日は特にその点に注意して業務を実施しています。

### **Q．各国の要員で構成される職場で気をつけていることはありますか？**

宗教や現地の習慣に配慮するようにしています。8月中旬から一ヶ月はイスラム教のラマダン（イスラム暦の第9番目の月）にあたり、この月にイスラム教徒は日の出から日没までの間サウム（断食）を行います。今の職場では4人（バングラディッシュ、イエメン、インド、日本）が同じ部屋で働いていますが、うち二人がイスラム教徒です。ラマダン中に彼らの前で飲食するのは、気が引けるため控えています。また彼らには一日5回礼拝をする時間があるので、そういった時間は尊重するよう心がけています。

### Q．赴任前後でスーダンに対する印象は変わりましたか？

当初4月に赴任したときは気温40度を超える日が続き、5月からは「ハブーフ（砂嵐）」も頻繁にあったため、「スーダンはこんなに過酷な環境なのか」と思うこともありましたが、しかし、数ヶ月たった今ではすっかり慣れました。生活に慣れてくると日本とは異なる良さも見えてきました。例えば、ここでは時間が比較的ゆっくり進むため、日本のように時間に追われるというようなことはなく、精神的にゆとりある生活が送れます。また、7月から8月は雨季で、雨が降った翌日には道路が洪水状態になってしまうこともありました。8月末の大雨の後に飛行機で上空からハルツームを見たときには、水溜りがかなり目立ち、数ヶ月前に茶色く乾燥した大地だった頃とは全く別の町に見えたことに驚きました。



（ハブーフ（砂嵐）時の様子）

### Q．スーダンでの生活について教えてください。

ハルツームでは娯楽が少ないため、UNMIS司令部内にあるジムに通ったり、週末はDVD鑑賞や読書で気分転換を図っています。また、職場の同僚の送別会に参加したり、知人と夕食に行き交際しています。先日は同僚からインドのお菓子をいただいたのですが、各国から持ち寄った食べ物を交換して味わったり、ここスーダンの地元の食材や調味料を使って料理をしたりすることも楽しみの一つです。



（ハルツームの町並み）

外出する際は目的地まで車で行くのですが、スーダンの道路は右側通行で、車は左ハンドルのマニュアル車ですので、日本とは逆になります。日本でも車を殆ど運転しない私には慣れるまでが大変でした。スーダンの交通事情も日本とは大きく異なり、交通ルールもあって無いようなもので信号無視や逆走などもあります。そのため今でも運転の際は、細心の注意を払っています。

### Q．任期終了まで約一ヶ月となりましたが、一言メッセージをお願いします。

赴任後に痛感したのが英語の能力を強化する必要があるということです。バングラディッシュやネパール、インド人など各国様々なお国訛りに慣れるまでしばらく時間がかかりました。特にコミュニケーション能力は、文法重視の日本の英語教育では比較の見落とされがちな側面ですが、日々の業務での重要性を感じています。UNMISでの任期を終えて帰国した後も、国際平和協力活動に携わった者として引き続き英語能力を鍛えていきたいと考えています。

また、UNMISの職員は様々な国から構成されていますが、中でも日本人が常に時間を厳守することや勤務姿勢が真面目であることについては各方面から良い評価を得ています。日本の職場で日頃やってきたことをそのまま遂行すれば、世界のどこで仕事をしていても強い信頼を得ることができると思います。

（2009年9月12日、インタビュー実施）



（勝又隊員と聞き手・齋藤）